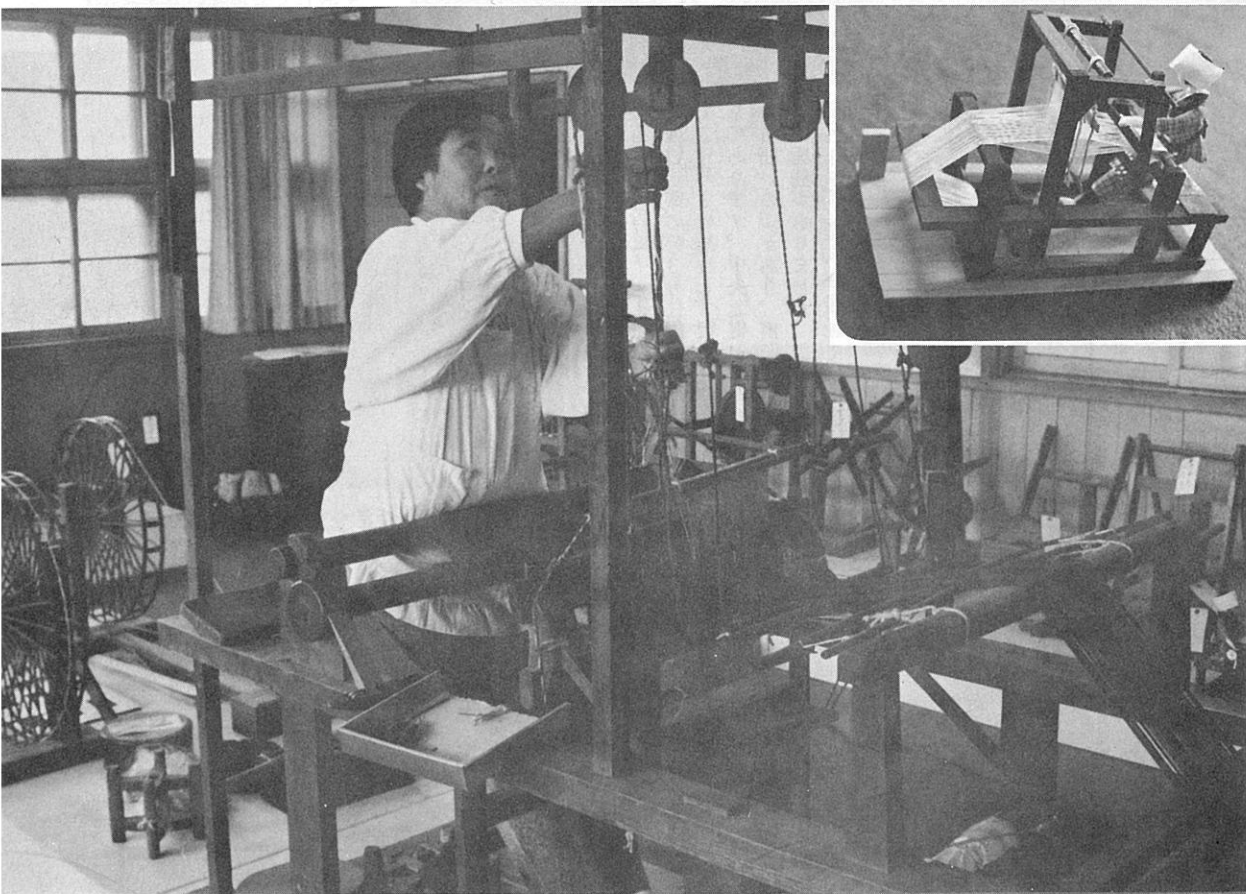


糸車

編集 山形村ふるさと伝承館



「ふるさと」って何だろう
NHKのシルクロードを見て郷愁
を感じた私達は……………

縄文土器の美しい文様を創った私
達の祖先是偉大な芸術家

煤けた古いランプの淡い光
機織りのトンカラリンの音
古いお手玉の感触

みんな歴史の中へ埋もれて行った

ふるさとに誇りと愛着を

新たな地域文化の創造を目指して

今、私達が伝えるべき

ふるさとの歴史がここにある

写真で見るふるさと 伝 承 館

◀ 玄関の隣の室には農具類・燈火類・生活用具等が展示されています。山形の祖先の方々がこれらの民具を作り使って生活して来たものです。今と比較して見て下さい。

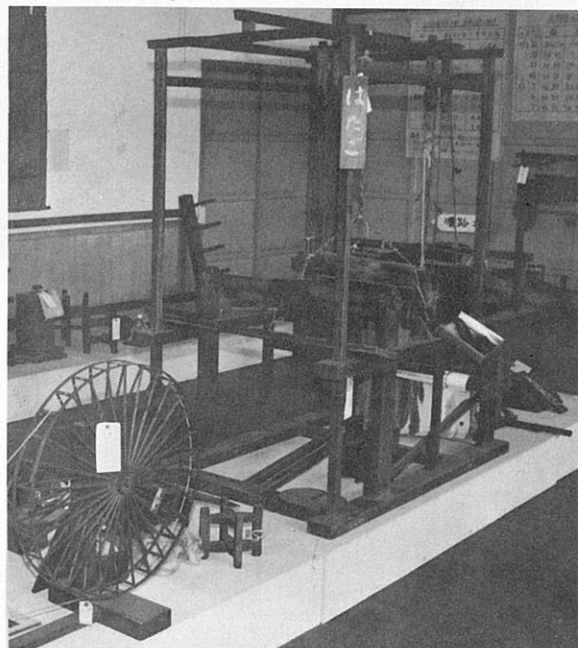
復元住居址

◀ 殿村遺跡の第3号住居址を3分の2に縮小して復元してあります。中央北寄りに石囲いの炉があり、南壁下に埋甕がありました。約1500年前の堅穴住居址です。

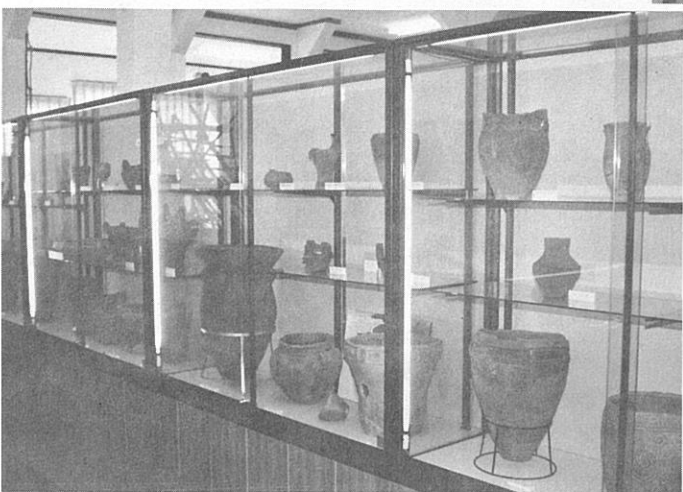
考古遺物展示室

◀ 今までに村内の遺跡で採集・発掘された、先土器時代から平安時代までの遺物を展示してあります。時代をおって変わっていく道具の変化を見ることが出来ます。

▼ 村の一時代の生活を支えたのが養蚕であります。時代の推移と共に農作物の内容も変わり蚕と共に生活した事も過去となりました。養蚕の用具には一生懸命蚕と共に生きた人の汗と血の匂いが染み込んでおります。



◀ 階上の和室には婦人の装身具などの民具や衣類の展示室である。幕末から明治初年の教育資料や古文書もあり、村出身の先覚者の顕彰コーナーもある。時代特別展や催しものの行われる会場にもなる。



ふるさと伝承館 のあゆみ



昭和六十二年五月一日
山形村民俗資料館建設実行委
員会発足

昭和六十二年五月十五日
山形村民俗資料館建設実行委
員会

昭和六十二年六月十五日
全委員会（基本計画）
七月一日

民家復元資料搬入
七月十五日

資料館展示室整備着工
八月二十九日

全館展示終了
八月三十日

ふるさと伝承館と命名
九月八日

開館記念式挙行
九月十日

開館披露特別公開 三日間



山形村長 本庄 国二

期待される伝承館

ふるさと伝承館だより創刊号の発刊を心からお喜び申し上げます。私も山形村の歴史を未来へ伝えるふるさと伝承館の活躍に大いに期待する者の一人です。

旧役場庁舎を利用し三年前のオープンしたふるさと伝承館には、埋蔵文化財では三夜塚・殿村など考古学上貴重な出土品に恵まれ又、村内には海外にも紹介された道祖人を始めとして数多くの石造文化財があります。

伝承館には、これらの文化財や、明治・大正の生活用品の展示など訪れた者が、ふるさとの温もりを感じ、伝統の文化に触れることのできる伝承館であってほしいと思っています。今後、益々の伝承館の発展と伝承館だよりの充実の為、役員の方々のご活躍をお祈り申し上げます。



山形村教育委員会
委員長 百瀬 節次郎

伝承館報創刊によせて

山形村の古い歴史の中で先人が残された物心両面よりなる文化財は非常に多いが、これを後世に残す事はその時代の人が努力して残すべきではないか、幸いにして村に於ても旧役場庁舎を伝承館として村



山形村ふるさと伝承館
館長 上條 信義

発刊にあたって

旧庁舎を改装され、これを歴史民俗資料館として発足以来第四周年を迎えて、この度館報を発刊することになりました。顧りみれば昭和四十八年十月、山形村開村百年記念事業の中で残された唯一の事

の文化財を保護することが出来ました。

上下竹田の建部神社の祭典行事も戦前に於いては、御神馬を奉納したが、現在では小供神輿に変わったように時代と共に変わるものもあれば、神社の正面入口の両側に立てる9反のほりは、あまり高くて苦勞するので戦後宮総代と区の役員と合同会議を行い、9反にするか7反にするか論議したが、結局従前通り9反のまま行う事となり修理して奉納した事があったが、数年前時代向の施設にして9反のほりを奉納している。このように伝承できるものは後世に伝統文化として残したいものだ。

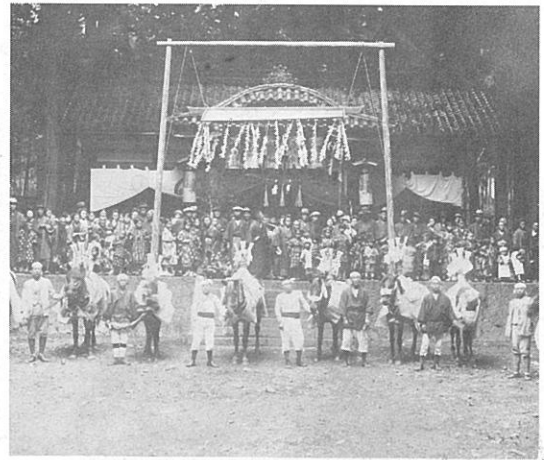
業で近い将来資料館を建設することになっていました。

伝承館は山形村歴史民俗資料を収集保存を目的とし、後世へ正しく伝承すること、小中学校の児童生徒にもわかる様な説明展示する。社会教育の補助施設として充分活用される様に配慮する等であります。

資料館として開館以来村内外より参観者も増加し其の貴重さの度を感じられて参り、収納庫等の必要と共に本資料館の建設の一日も早からんとを痛感し其の実現の早からん事を祈って発刊の言葉とします。

むらの今昔物語 ①

上中大池のおまつり



秋の深まりと共に村祭りが始まる。豊作を祝う花火の音にも心がはずむ。
上中大池の祭りも昔は夏祭り、七日の農休みに行われていたが、今は秋祭りになった。大正年間には上中大池がいつしよに祭りを行っていたが、今は年番で交互に行われている。両大池には舞殿があり、これを曳き奉納する。一番先に作られた舞殿は天保十三年の作りであったが、あまりにも大きく曳くのに大変だったので弘化の頃現在の舞殿に作りかえた。この舞殿と祭囃子は村の有形・無形文化財に指定されているので、その保存と伝承を強く求められている。上大池の祭囃子の笛は

十五曲あるが、今は吹く人が少ない。昔は笛を吹く人が多く舞殿に乗りきれず後をついて笛を吹いたという。舞殿に乗り囃すのは子供で、小学校一年生から六年生までである。囃しの練習は一か月ぐらいかかるので大変である。
また昔は農耕馬がいたので馬をきれいに飾り、本祭りに奉納した。境内を三回まわり、その後馬につけた御幣の取合いをしたものである。今はその面影さえない。遠くふるさとを離れていても秋になれば哀調をおびた笛の音や太鼓の音は思い出される。祭りの行事は大切に守り伝えて行きたいものである。

文化財

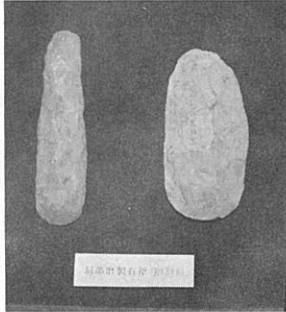
① 穴観音

唐沢山の中腹、上弁田字観音前という地籍に、いつの頃からか古墳の石室の中に観音様が祀られ「穴観音」として尊崇されている。一寸八分の金の観音様が御本尊だったという。この穴観音古墳を中心に付近一帯は村の史跡に指定されている。明治初期に建造された百体観音や木曾義仲伝承のある馬頭観音など多くの石仏がある。写真は明治初年の廃仏毀釈で廃寺となった波田の若沢寺から移された「宝

考古学

あれこれ ①

山形村のパイオニア



写真の石器は、今から約一万二千年から一万年、縄文時代が始まる頃に山形村に初めて住んだ人々が残してくれたもので、三夜塚遺跡で採集

「篋印陀羅尼経塔」で、山を少し登った処にある。文化四年（二八〇七）の作であり古



いものではないが信濃日光といわれた寺からのものとして大事にした文化財である。

されました。この頃の日本列島は氷河期が終り、次第に暖かくなってきたおり、ドンダリ・クリなどの木の実が豊富に取れる森林が広がっており、それらを食料とする人々が山形村にも移り住んで来たのです。
この石器は「局部磨製石斧」と呼ばれ、楕円形を呈す平面形と、三角形かカマボコ形の断面をもち、身部は打ち欠かれ、刃先のみ磨かれているのが特徴です。刃部が柄と直角に交わるように着柄される横斧として使われた道具で、松本平では山形村からしか出土しておらず、大変貴重な石器といえます。

——伝承館あんない——

- 開館日 毎週土曜日午後1時から5時
- 入館料 大人100円 小中学生50円
- 資料 考古学1,500点・民俗500点
- ※伝承館では、季節行事の展示等大勢の皆様のご来館をお待ちしています。